

保育おおさか

No. 499

平成29年3月1日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪府中央区中寺1丁目1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/

(別表) 平成28年度研修実績

ブロック名	日付	参加者数	研修概要
北摂	平成28年11月25日	32人	・事例検討 ・グループ討議(自施設で自慢できる地域への取組)
北大阪	平成28年11月10日	41人	・大阪しあわせネットワーク事業について ・障がいのある子どもと保護者への支援
八尾	平成28年11月18日	47人	・八尾市人権協会について ・CSWとの事例検討
東大阪	平成29年1月24日	28人	・大阪しあわせネットワーク事業について ・CSWとの事例検討
南大阪	平成29年1月19日	23人	・大阪しあわせネットワーク事業について ・スマイルサポーターによる事例検討
堺	平成28年11月24日	32人	・大阪しあわせネットワーク事業について ・CSWとの事例検討
泉州	平成28年11月29日	55人	・スマイルサポーターの役割について ・対応事例と支援の傾向について ・CSWとの事例検討

保育園・認定こども園における地域貢献事業

スマイルサポーターフォローアップ研修実施報告

平成28年度の地域貢献支援員(スマイルサポーター)養成研修が、2月3日に全課程を修了しました。

今年度の修了者は197人。累計約1,900人が認定される見込みです。

保育部会では既認定者を対象に、フォローアップ研修を毎年実施しています。全認定者対象の「全体研修」のほか、ブロックごとに企画、開催しています(別表参照)。

大阪府社協が推進している「大阪しあわせネットワーク」では、各種

別部会の枠を超えた社会福祉法人によるネットワークの構築により、より地域の課題にアプローチし、迅速に対応する体制づくりを目指しています。本部会においても、スマイルサポーターによる子育て家庭への支援と他機関連携の機能に、より期待が高まっています。

9月8日の全体研修では、大阪しあわせネットワークの概要に加え、「子どもの貧困」をテーマに、その実態と生活困窮者自立支援制度について学びました。

ブロック別研修会では、「地域課題に対し、保育園・認定こども園がどう取り組むか」「スマイルサポーターがいま地域にできることは何か」等をテーマに、府社協社会貢献支援員や老人施設部会のコミュニケーションソーシャルワーカー(CSW)との事例検討会を積極的に導入。グループワークを実施し、とりわけ貧困問題や虐待、障がい児の育児等において、社会貢献支援員やCSW等他種別施設との「顔の見える関係づくり」を構築することで、解決困難な地域課題に対しても、重層的で多様な支援への可能性を確認しました。

このようなネットワークの構築を「大阪モデル」として全国に先駆けて推進。「地域における公益的な取り組み」の好事例として期待しています。今後も積極的に、大阪しあわせネットワークの中でスマイルサポーターが果たす役割の共有を進めて参りたいと考えています。(事務局)

ブロック別研修会では、「地域課題に対し、保育園・認定こども園がどう取り組むか」

193人に認定証交付 新年互礼会開催

1月23日、ホテルモントレ・グラスミア大阪で保育部会新年互礼会が開催されました。



榎本真千さん

来賓として大阪府議会副議長・花谷充倫氏、平野良子氏(衆議院議員・浦野靖人氏代理)、大阪府議会議員・永野耕平氏、全国認定こども園協会大阪支部長・嶋田典之氏、大阪府立大学教育福祉学類長・関川芳孝氏のほか、大阪府、堺市、高槻市、東大阪市、枚方市の行政の方々にも出席いただきました。

式典では「育児相談員」の認定証交付式が行われ、今年は193人が認定を受け、おりづる保育園(東大阪市)の榎本真千さんが代表して受け取られました。(事務局)

式典では「育児相談員」の認定証交付式が行われ、今年は193人が認定を受け、おりづる保育園(東大阪市)の榎本真千さんが代表して受け取られました。(事務局)



平成28年4月1日から社会福祉法の一部を改正する法律が施行されました。

議員の必置や財務規律の強化などが求められることとなります。さまざまな変化の中、一際目をひかれたのは「地域における公益的な取り組みを実施する責務」が明言されたことでした。

現在もたくさんさんの施設で地域貢献に取り組んでおられるかと思ひます。そんな中、なぜあえて今「公益事業に取り組むべし」と法律の中でうたわれたのかを考えてみると、やはり制度の狭間にある人や、生活においてのさまざまな生きづらさから、助けを求める人の声が聞こえてくるような気がします。

今回の法改正を機に、あらためて社会福祉法人として何ができるのかを考え、また、引き続き地域貢献事業を行っていくためにも、より一層地域の人たちと顔の見える関係をつくっていくことが重要なのだと感じました。社会福祉法人が現在の駆け込み寺になれるように、私も取り組んでいきたいと思ひます。

(事務局D・D)

どう向きあうか 増え続ける児童虐待

1月24日、薬業年金会館で大阪府社会福祉施設人権活動推進協議会との連携事業として「子どもの安全を守るために」をテーマに研修会を開催。134人が参加しました。講師には河野朗久氏（河野外科医院理事長、大阪府監察医）を招きました。以下は要旨です。

医学的見地から講演をされました。

児童虐待にはさまざまなあり、児童虐待相談件数が毎年1万件以上増え続けているとのことでした。

虐待のほとんどが「良い親でありたい」「良い子に育ててほしい」という、親の心理や子育てのストレスです。誰しもが起こし得る可能性があることを理解し、「どうして虐待をしたのか・どうしなければならなかったのか」と考える視点が大事です。

また、虐待を発見した時には、客観的に物事（傷の大きさ・場所・色・形・種類）を見ること、そして気づいた時には、すぐにできるだけ正確な写真を撮ることが大切であると指摘。

法



法医学の観点を勉強

その際のポイントは、①傷全体が一つのフレームの中に収まること②自然な体位③傷に対して真正面から撮影する、この3点です。さらに、保育現場で発見

する可能性の高いケースとして「乳幼児揺さぶられ症候群」をあげられました。特に慌ただしい朝（両親が出社・登園準備をする時間帯）に起こることが多く、虐待を受けた子どもは①発熱②哺乳力の低下③嘔吐④手足の痙攣やつっぱりなどの症状を起こす可能性があり、症状が見受けられた時には救急車を呼び、救急隊員に脳内出血の可能性を伝えることで、現在の医療であれば高い確率で死亡にはつながらないとのことでした。

また、保育中に園児が頭

を打った時は、一度医療機関に受診することが望ましいと指導していただきました。

今後、増え続ける虐待に、どう向き合っていくのか、また何ができるのか。私たち一人ひとりが思いやる気持ちを持ち、行動することが子どもたちを守り、虐待を減らす一番の鍵を握っているのかもしれない。

保護者の働く環境が多様化する中、親子が笑顔で幸せになれる環境づくりを目指していきたいと思っています。（調査研究委員会K・K）

スマイルサポーター事業

園長研修会開催

スマイルサポーター事業を、施設全体で取り組むため、施設運営者である園長先生にも事業について理解を深めていただくため、園長研修会を毎年開催しています。

今年度は、昨年12月19日、薬業年金会館で開催しました。

研修会では冒頭、保育部会地域貢献事業推進委員長

子ども子育て支援新制度に係る集計を実施した保育関係資料集を発刊

保育関係資料集が発刊されました。

今年度は昨年度掲載されていた、各市町村別の利用児童数や施設数等の詳細な表を大阪府社会福祉協議会のホームページに掲載するとともに、新たに各市町村別の就学前児童数推移・施設数割合・認定児童割合の3種類のグラフを追加掲載しております。

また、各市町村の助成

状況についても、変更点のある市町村が見受けられます。この資料集やグラフを用い、それぞれの地域の保育ニーズと動向に着目し、保育運営のご参考にしていただければ幸いです。

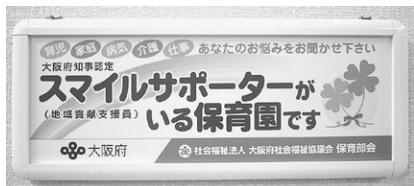
発刊にあたり、保育関係資料集作成にご尽力いただきました府および市町村の担当者、先生各位に厚くお礼申し上げます。（調査研究委員会S・Y）

聞き入っていました。

その後、大阪府立大学教

生から、「大阪しあわせネットワーク」の概要と、本事業の位置づけ、さらには本事業の今後の可能性について講義いただきました。

この講義では、スマイルサポーター認定者（保育士）だけでは地域貢献事業が



うまく機能しないこと、園長の立場からの求心力や支えが必須であることを強調されました。

なお、本研修修了者には、終了証が交付されるとともに、スマイルサポーター在籍の証として看板（保育園版・認定こども園版）を購入することが出来ます。（事務局）

5歳までに 本物を与えることが大切

医学的見地から教育に力入れる

高槻市

幼保連携型認定こども園
あいこ
愛光認定こども園

療法人東和会が有料老人ホームに併設の保育園として、平成18年4月『みやの愛光保育園』を開園。平成28年4月から、幼保連携型認定こども園に移行し、『愛光認定こども園』と名称も改め、特色あるこども園づくりを目指しスタートされました。

保育園を開園した当時から、「全ての子どもたちが小学校に進級する」という考え方を根っこにすえ「進級した子どもたちが、将来に向かって希望を持ち堂々と生きていく力の基礎を育成する」を合言葉に、10年間実践。そのため「認定こども園」へは、ごく自然な形で移行できました。



楽しさあふれる門構え

①命を大切に。②人の話をよく聞き、判断して行動する。③周りの総ての人々に感謝の気持ちを持つなど、これまで大切にしてきた教育・保育の目標が、移行後は保護者の理解もより深まり、一層定着してきていると感じておられます。

同じ建物内の「有料老人ホーム楽々園」とは、ミニ運動会、夏まつりなどで年4回以上交流。「優しい心」育ては、お年寄りも大きな力となっています。

また、今年度は小学校との交流にも力を入れられ「来園する6年生児童の中から、保育教諭の希望者が出てくれたら嬉しいです」と話されていました。

理事長が、医学の見地から「5歳までに本物を与えることが大切、脳の発達は



なんでも教えてくれるおばあちゃんたち

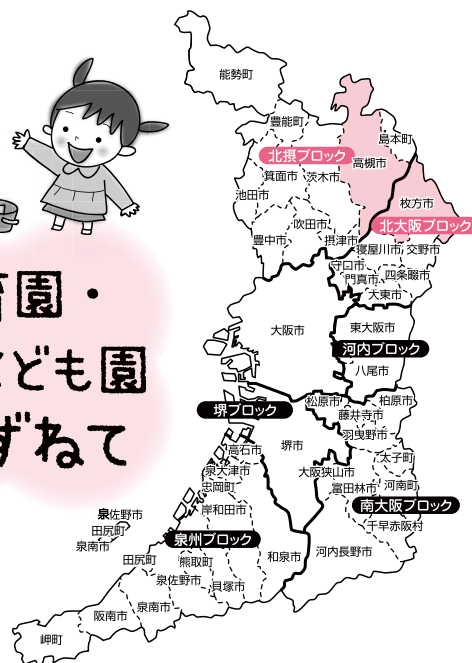
(編集委員M・K)

5歳までにほとんど完成する」と訓話され、体操や音楽、英語、水泳等は専門の方を招聘し、指導されています。

医学的見地のもと、教育に力を入れておられるこども園でした。

保育園・ 認定こども園 をたずねて

555



花まつりをみんなでお祝い

枚 方市の北部に位置する招堤保育園は、仏教の教えが保育の中につかりと根付いている保育園です。

行事を大切にされており、「花まつり」では、お釈迦様の誕生日をみんなで祝います。命の大切さを知り、「自分も大事、お友だちも大事」ということを学びます。

また、七五三のお祝いでは、成長した喜びを親にも感謝し、「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ちをこばに出して言えることを大切にしています。

七夕では、園庭に20本の

笹が設置され、そこに色とりどりの願いを込めた笹飾りや短冊が飾られます。道行くご近所の方々も夏の風情に感動し、お声をかけてくださるとのこと。良い地域とのコミュニケーションになっているようです。

保育内容の「制作」には特に力を入れ、「創造性を培い、感性豊かに育む」ことをねらいに取り組んでいます。

毎月の園内職員研修では、子どもたちの持っている表現の素晴らしさをどう引き出すかを常に考えて指導しています。

七五三の千歳あめの袋づくりも、個性豊かです。も素敵なものになっていました。

とくに興味深かったのは、5歳児が1年を通して自分でつくる「白い絵本」。テーマは、毎年



自分だけの絵本

できあがり間近の白い絵本は子どもたちの夢がたくさん詰まった素晴らしい絵本でした。きつと大切な自分の宝物になることでしょう。

(編集委員H・S)

夢がたくさん詰まった 絵本

一年を通し自分でつくる
「白い絵本」

枚方市

保育所
しよだい
招堤保育園

少人数の家庭的な環境 生かす

兄弟・姉妹のようにみんなで
仲良く過ごす

東大阪市

保育所

あいせん保育園

少人数のため、クラス別の設定保育の時間以外はみんなで過ごすことが多く、色々な場面で、兄弟・姉妹のような微笑ましい姿が多く見られます。

家庭的な環境の中で、譲りあうこと、慰めあうこと、思いやること、注意すること、大切にすること、競うことなどが自然と身に付くよう保育士は担当の園児だ



福娘さんたちとハイポーズ！

(編集委員T・Y)

けでなく、常にとの園児にも言葉がけや指導をして、一人ひとりに目の行き届いた保育を心がけています。

確かな愛情と正しい知識・技術を持ち子どもたちの健全な心身の育成を目指しています。

本最古のため池「狭山池」がある大阪狭山市に、山本こども園があります。周囲は畑に囲まれ、とてもどかな環境です。大型遊具と一体化した門扉をくぐると、モダンなシンメトリデザインの園舎と、樹齢40年の立派なクスノキが出迎えてくれます。

もともとこの地にあった公立幼稚園が閉園したことで、平成25年に光久福祉会が保育園として、新設開園しました。平成27年には幼保連携型認定こども園に移行。地域の保育所、幼稚園ニーズを一手に引き受けて



大きなクスノキと園舎

に、足元がポカポカでした。

(編集委員N・M)

食育では郷土料理や世界の民族料理を月一度設け、食への興味を育んでいます。うどん

目玉は何といっても玄関横に設置された室内温水プールです。「保育理念にもある『心を育てる』ために、在園中にいろいろな経験をし、感性を育てることが大切」と、辻久美子園長。その一環として、スイミングができるようにプールを設置したそうです。空調、給湯をすべてガス式で導入し、全クラス給湯式の床暖房を備え、しかもフローリング材は無垢材を使用。訪問当日の寒さは嘘のように、まさに保育目標で掲げられている「調和のとれた発達」を目指し、実践されていました。

保育園・ 認定こども園 をたずねて

556



園備え付け温水プール

心を育て「調和のとれた 発達」を目指す

いろいろな経験から感性を育てる

幼保連携型認定こども園

やまもと

山本こども園

大阪狭山市



シリーズ●認定こども園になって

第4回

子どもたちの育ち保障を 促進するために！

ゆう安中東こども園／あい桂こども園

—河内ブロックより—

平成27年度から幼保連携型認定こども園へ移行。

(1) 移行へのプロセス

① 職員対応

運営母体を白水福祉会として、堺2力園・八尾2力園が揃って、平成26年度から取り組みを進めました。法人の活動方針は、現在の幼保連携型に求められている内容を率先して取り組んできたことから、早々と移行を決定しました。

「現在を最もよく生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培います」という当法人各園の教育・保育目標をもとに、入園乳幼児童をはじめとして、地域の子どもたちへの育成支援や健全育成と加えて保護者の育て

べき育て保障の考え方の共有と体制整備。①1号認定児童と2号・3号認定児童の考え方。②取り組み内容の違いについてと教育時間の設定。③延長時間帯と対応の具体化。など多岐にわたり、レクチャーとグループディスカッションに時間をかけました。

② 保護者周知と協働へ

職員周知が終わり、いよいよ保護者説明会を行うこととなり出欠アンケートを採りましたが、在園児にはあまり関係がないと理解されたようで各園ともに予想以上の低出席でした。再度質問には個別対応させていただく旨のお知らせをして、27年度を迎えることとなりました。

(2) 移行からの現実

園名も「保育園」から「こども園」に変更、看板や各書類の変更をしました。年度当初から1号認定入所は法人全体で堺の1園のみ。2号認定児童の認定取り消しに伴い、2号認定から1号認定に移行した結果でした。このような状況下により、八尾2力園としては1年間の余裕を持って1号

認定児童の受け入れに対応できたとも考えられます。28年度は制度が少し浸透してきているのか、電話での問い合わせや申し込みも増加していますが、やはり次のような課題はありました。

設置認定変更に伴い、法人各園では2号・3号定員140人、1号定員5人の合計145人と受け入れ人数アップ（10→15人）を進めたことにより、部屋面積や職員配置数も考えていた以上の負担感に。

しかし、利用者側に立てば選択肢が広がり、待機を余儀なくされていた子どもたちにも入園への門戸が開かれたことは間違いのないことも確認できました。

(3) 具体的運用は…

1号認定児童が入園したことにより、注意を要したところは、3歳児の午睡時間と1号認定児童の降園時間がバッティングするところ。午前9時から午後1時の4時間が教育時間、法人としてのサービス延長1時間を含め午後2時までとしましたが、それでも整合性の確保には工夫と配慮を要しました。いくつかの

動き方を設定し、最終決定は保護者選択としました。また、短時間設定による最も大きなポイントは、今までの午後プログラムをいかに負担なく午前中の活動に含めていくかという点。

一般的に言われる「運動会・発表会・遠足」など、園が主催する「年間活動」時のオーバータイムについての延長保育料は徴収しないことにしました。

開園以来、取り組みを進めてきた小学校との協議でいつも話題となるのは、入学当初に前を向いて45分座っていることができないという実態です。こども園化に伴い縦の連携強化は大きなテーマですが、その点をより一層視野に入れ、日々の生活習慣の見直しと4・5歳児クラスの一人用機の導入や国語指導内容や方式の工夫、また発表時には起立をして「○○です」「○○だと思います」…と最後まで自己表現ができるように、小学校の授業リズムへスムーズにつながるためにチャイムを活用して自己判断・行動への取り組みを進めています。

(4) その他の特徴と今後の展開

八尾2力園の特徴の一つ住宅事情や地域事情により外国語圏の利用者・園児が多く、通訳の必要性は必須課題となっています。国際化が進む中、同じように機会を並べ、同じものを食べて育ち、共に分け隔てなく人間関係を育成するシステムが求められます。

また、「育ち保障」とは小学校、中学校へと進学し将来良き社会人へと成長するようにサポートすること。卒園送り出しで終了という0歳からの6年輪切りではなく、育ちに伴走するシステムこそ求められる教育保育の本質でありたいものです。当法人理念では「一人ひとりが健康で幸せな人生を全うできるよう生涯発達の視点を持ちながら…」と謳っていて、開園以来その道を歩んできましたが、こども園に移行により、一層その思いを強く受け止め、小学校を含む機関、団体との連携を強化していきたいと考えています。

(ゆう安中東こども園

S・S)

ブロックだより

OSAKA

北摂

アウトドアで リフレッシュ

1月28、29日に北摂ブロック保育部会福利厚生事業スキー・スノーボードツアーが17年ぶりに復活！
兵庫県のハチ高原スキー場で開催され、8施設から総勢33人が参加しました。

晴天に恵まれた1日目。スノーボード初心者の方はレッスンを受講し、基礎を教わった後、経験者にマンツーマンで指導してもらい、何度も転びながら一生懸命練習していました。夜は宿舎でお鍋を囲み交流会を行いました。

普段話することがない他園の先生方と話す機会を持つことができ、保育の話等、



初めてのボードに苦戦

終始笑顔が絶えない交流会となりました。

翌日には、ほとんどの先生方が筋肉痛で苦悶の表情

を浮かべていましたが、めげずに、各自残り時間をスキー・スノーボードで楽しんでいました。

今回のリフレッシュ研修を通して、普段の疲れを癒すことができました。

また、他園からの刺激をもらうこと、ひとつのことに一生懸命に取り組む中で、向上しようとする気もちの大切さ、今後の仕事に取り組み姿勢についてもあらためて考える機会となりました。(ちとせ学院K・N)

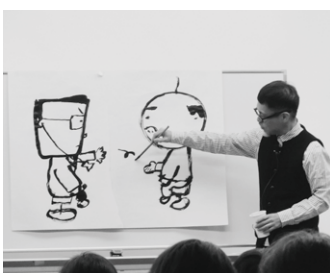
北大阪

絵本から伝わる 温かな気もち

1月16日、大東市立市民会館キラリエホールで絵本作家の長谷川義史氏を講師に招き「絵本で子どもたちに伝えたいこと」と題した絵本ライブラリーが行われました。

長谷川義史氏のあのユーモラスで温かな雰囲気に参加者一同が包まれながらの研修でした。

「しってるねん」の読み語りでは子ども心だけでなく、大人の心もぐっとつかまれました。先生が翻訳された「どこいったん」では、最後にどうなったのかあえて答えを出さないで、受け止める人の想像力に託している面白さなどが学べました。



絵本作家 長谷川義史氏

先生のデビュー作である「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」では、人は誰でも両親から生まれてきたこと、生命をつないで次の世の中をつくらなければならない感動的な想いを、とてもユーモラスに子どもがわかるように語られることに感銘を受けました。

あのリズムミカルでのりのいい「大阪うまいもんうた」もいろいろな地方の子どもと考えながらアレンジする面白さ、楽しさを教えていただきました。

その場で模造紙にお話を作っていく「ライブ紙芝居」は、保育者をもっと見たいと思うほど面白く、子どもたちにもいろいろ研究してやってあげたいと言う参加者の感想を多く受けました。

楽しいお歌も披露していただき、いろいろ考えさせられるのに、なんだかほっとする気もちになりました。こういう気もちを、これから次の世代を担っていく子どもたちに少しでも伝えられたらいいなあ、と思う面白い研修でした。

(大東つくし保育園H・K)



さんぽ

昨年のリオデジャネイロ五輪で、日本は過去最高の41個のメダルを獲得しました。

海外の報道に共通する日本人選手の評価は、「勤勉と実直」らしい。

また、五輪でアスリートたちを陰で支える「メイドインジャパン」の技術力も注目を浴びたそうです。

4年に一度のスポーツの祭典が、日の丸の技術と日本人の誠実さを世界に知らしめる、大きな機

外国人が感嘆する。

世界が憧れるニッポン

会となっています。高い技術力や製品力、日本人に対する信頼性、加えて美しい伝統や文化、優れたコンテンツを求め、海外から訪れる外

0万人の大会が見えるところまでできています。近年は体験や感動などプライスレスな付加価値を求めるスタイルが定着しているようです。

国人の数は、相変わらず増え続けているようです。2015年の訪日外国人の数は前年より47%増えて1,974万人に達し、いよいよ2,000

2020年の東京五輪まであと4年を切った今、世界からの日本への期待も高まっています。スポーツの世界のみならず、世界のリーダーとし

南大阪
ブロック

過去、大和魂復活こそ、世界が大調和に向かっていることだと、どこからか聞こえてくるような気がしています。(石川保育園A・M)